



JFE物流を支えるのは  
最前線で活躍する現場の皆さん。  
彼らの「現場力!」を紹介します!

倉敷運輸(株)  
製品物流部 港運物流課

# 総合オペレーター 竹田良和さん

クレーン、フォークリフト…なんでもお任せ!  
倉敷運輸港運物流課では、今日もたくさんさんのフォークリフトがコイルやスラブを選び、岸壁のクレーンがそれらを船に積み込んでいます。今回はここで見た、港運に関するものならなんでも乗りこなす、入社18年目の「オールラウンダー」を紹介しましょう。



—いろいろな操縦されるとお聞きしましたか?—

はい。コイルやスラブを岸壁に運ぶフォークリフトや、そこから船に運ぶためのクレーンを操縦するのが主な仕事ですが、時にはマテリアルハンダーという重機を使って、船で運ばれてきたスラブの水揚げをしたり、倉庫の天井クレーンを操縦することもあります。

—最初に乗ったのは?—

入社して1年間は整備をやっていたんです。それから港運に来て、はじめのうちは玉掛けをやり、最初に操縦したのは岸壁のクレーンでした。

次が倉庫クレーン、そしてフォークリフトという順番ですね。この仕事に就いたのも、クレーン、フォークオペレーターと求人情報に出ていて面白そうだと思ったからです。まさかこんなに大きいものだとは思いませんでしたけど(笑)

—何を操縦するのが好きですか?—

フォークリフトが面白いですね。自分で荷物を持ち上げ、他の場所まで移動して降ろすというのはこの車輛ならではの、3.5tという小型のものから45tまで、いろいろな大きさに乗れるのが毎日新鮮なんです。

—車輛の大きさによって操作も変わりますか?—

大きさはもちろん、車輛のメーカーが変わっても、操作の仕方や気を付けるべきポイントが全然違います。一番の違いは、操縦席がセンターにあるか左サイドにあるかですね。左サイドにあるものは、操縦席から右側はリフトや積荷に隠れてほとんど見えないんです。カメラで確認もできますが、自分なりにその車輛の特性を掴むことが大切になります。

—ある程度の経験が必要ということですね。経験と、あとはセンスも必要です。スラブなど長さのあるものを運ぶときは、左右のバランスをとらないと片方が浮いてしまうし、コイルはき



レバー操作にも繊細さが問われる。



自分の体ほどもある大きさのタイヤを点検。

## なんでも操縦できるからこそ、連携する他の作業のことを常に考えて運んでいます。



スラブを運ぶ際は、左右のバランスをとることも大切。

ちんと穴の中心に爪を通さないと、まっすぐ持ち上げられません。また、積荷を降ろす位置は、当の荷物によってほとんど見えない。こういうところは感覚勝負ですね。

ばクレーンが取りやすいかを考えて運ぶようにしています。全体を効率良く進めるために、次の作業の人たちがやりやすいように運ぶ。なんでもできるからこそ、そこは特に心がけています。

—どのくらいでできるようになりましたか?—

—この仕事の醍醐味は?—

正直な話、まだできていない感じはしないです。先輩たちの操縦を見ていると、まさに流れるような動きなんです。自分の操縦と何が違うのかがわからないんです。フォークリフトは、あるとき瞬間的に「こういうものだ」と悟るらしいんですよ。自分はまだその域には達していませんね。

全ての荷積みを終えて、船が出たときには「今日もやりきったな」という達成感がありますね。あと、外航船の船員さんたちとコミニケーションをとるのが密かな楽しみ(笑)

—いろいろな操縦できるようになって変わったことはありますか?—

他の作業の動きがわかっているんで、例えばフォークリフトを運転しているときは、どう置け

—これからの目標を教えてください。—  
大きいものを操縦しているんで、とにかく安全第一で、自分もそうですが、まわりにも怪我をさせないように気をつけていきたいです。この秋に岸壁のクレーンが新しく導入される予定なので、運転するのが今から楽しみです。



上司から見た竹田さんの「現場力!」  
チーフラインマネージャー 北口敬二さん

「まさに万能。心強いリーダーです」

素直で真面目。そして向上心があるからこそ、ここまでのオールラウンダーになれたんだと思います。指示したこともそうなくやってくれるし、幅広く「ミニミニ」ヨンがとれるので安心感があります。これからは新人を教える指導者としても頑張ってほしいですね。